

# 革命の旗

共産主義者同盟  
(革命の旗)  
中央機関紙

第29号  
1980.11.20  
定価 150円  
(毎月5日・20日発行)

発行人 北沢 晋  
発行所 赤 流 社  
電話 (03)787-7699  
東京都世田谷区千歳  
郵便局 私書箱4号  
振替 (東京)7-86947

年間定期購読料  
開封2500円(送料共)  
密封3000円( )

今号の主な内容

- △闘争報告、沖繩月報……………2面
- △真相を糾明する会アピール……………3面
- △国際評論、読者からの通信……………4面
- △労働運動論文(中央労対)……………5面
- △国内評論(健保、労災法改悪問題)……………6面
- △戦旗・共産同批判(下)……………6面

闘争日程

- 11.23 反基地、反CTS、反再処  
理(沖繩シンポジウム)PM1、  
板橋区立労働福祉会館、80年代沖  
縄解放を目ざす実行委)
- 11.25 11.22事件五周年、死刑阻  
止関西大集会(PM6、中之島公  
会堂、政治犯)支援全国会議会  
PM1、金大中救出集会(PM1、清  
日比谷野音、日本連絡会議)
- 12.5 安保粉砕・日韓連帯集会  
(PM6、川崎北労働センター、  
反戦反安保神奈川実行委)
- 12.7 三里塚現地飛行阻止闘争  
(現地、反対同盟主催)
- 12.13 日韓連帯行動(PM1、清  
水谷公園、首都圏緊急運動)

# 11.30

## 日朝労働者連帯東京集会へ

### 金大中氏らへの死刑判決弾劾！ 日米安保粉砕！

午後一時 田町機械工具会館  
(国電田町駅下車)  
講演 中川信夫氏 その他  
主催 集会実行委員会



十一月三日、金大中氏らへの死刑判決弾劾・安保粉砕・日朝労働者の連帯をめざす東京集会」が中川信夫氏らをして開催される。わが同盟は、この集会を強く支持し、日韓民衆連帯の闘いを積極的に進めている多くの労働者・学生がこの集会に参加されることを訴える。

### 不屈に燃えひろがる反米反日反独裁闘争

周知の通り、十月十四日にはじまった、金大中氏らへの控訴審は二十八日、わずかに六日で論告求刑(控訴棄却)がなされ、十一月三日にはまったく不当にも控訴棄却が決定された。この間、十月二十五日には光州事件の「首謀者」とされた学生・市民五名に内乱罪一死刑判決、七名に無期、一六二名に二〇五年の極刑、重刑判決が行われている。更に十一月十三日には、「政治刷新」と称して民主人士を含む八十一名にも及ぶ人々に、今後八年間の政治活動禁止がうたがわれている。

こうした全斗煥の血ぬられた軍事独裁の圧政の中にあつて、しかし光州蜂起へと登りつめていった韓国民衆の民主回復・戒厳令撤廃の闘いは、消し去ることのできない不屈の闘いとなって持続されている。十月八日朝には、韓国神学大で礼拝に集まった一五〇名の学生たちが「光州事件犠牲者の追悼式にしよう」と叫び、ビラをまき学外デモを試みている。ついで十七日、高麗大学では四〇〇名の学生が「全斗煥政権退陣」国民投票

を即中止せよ」を掲げ二〇日からの登校拒否をよびかけ、抗議の座りこみ、デモを敢行している。更に十一月六日の成均館大につづき十日には淑明女子大では、全斗煥退陣を掲げ千名の学生が集会とデモを行っている。

全斗煥の軍事ファシズム支配の暴政をもつても、決して民主回復を希望する韓国民衆の決起を解体することはできない。光州蜂起へ至る道標が示す通り、韓国民衆の決起の歴史は、朴体制十八年の過程でも、完全に圧殺されることはなかった。学生が決起し、民主人士が決起し、労働者が決起し、不屈の闘いは大きな底流を形成している。今こそわれわれは、この韓国民衆の歴史的決起に、心底連帯しうる闘いを構築していかなければならない。

今年五月の韓国民衆の光州蜂起は、日本の自覚した労働者の革命的魂を激しくゆさぶった。それは韓国民衆の頭上に日米安保を要として、日本帝国主義の新植民地支配の鉄鎖が重くのしかかっていることを見ぬいてからに他ならない。したがって、日本労働者階級の国際主義的任務の完遂は、この一点の現実から導くことができる。

なによりもわれわれは、韓国民衆の頭上に重くのしかかり、その生血をすいとって、肥えふとって自国帝国主義打倒を、その第一課題とせねばならない。

### 日朝・日韓民衆連帯と安保粉砕を結びつけよ

日本の労働者階級は、この間、日帝の戦争と反動の拳国一致体制構築に激しく反抗戦を貫いてきた。そして韓国民衆の決起に勇気づけられ、日韓民衆連帯の闘いを、わが国の人民闘争の課題をスローガン的に列挙するのではなく、内実において合流させることに、

一定程度成功してきている。労働者の先進的闘士たちは、日帝の韓国への新植民地支配により、そのおこぼれでふとつてきた労働貴族の進める右翼的「労働統一」に反対し、真に国際主義的任務を完遂しうる労働者階級の団結を模索しはじめている。

### 単一党創建・攻勢的統一戦線の発展のため

われわれは、今日、日本労働者階級の当面する政治的任務として安保粉砕、日朝・日韓民衆連帯の闘いが重要であることを訴えてきた。それ故、なによりもこの階級の発展のためには、大衆闘争をより広範に組織すると同時に、その中で安保粉砕をカラムとした党派間の共闘の発展を促さねばならない、と主張してきたのである。

こうした部分との闘いをおしすすめ、社共にかわる労働者階級の党の創出と結びつけ闘うなかでこそ、右翼「労働統一」反対・労働組合の階級的統一をめぐり、二つの敵対的階級の和解を「平和一般」の美辞麗句でなすものに他ならない。すなわち、帝国主義という社会制度をそのままにして、したがって労働者階級の賃金奴隷制からの解放にいっさい手をふれることなく、あれやこれやの改良政策でなく、帝国主義的災禍から、労働者階級・人民の脱却が可能であるかのように見せかけるものである。

## 全国党建設へ更にまい進せよ

11.29 共産同(革命の旗)  
関西講演集会を闘いとうろう

共産主義者同盟(革命の旗)中央委員会

昨年われわれは、八〇年代が戦争と革命の激動の時代であると言明した。同時にこの時代をしっかりと見すえて、闘いとつた統一・革命の旗を基礎に全国的な単一のマルクス・レーニン主義党創建をめざし、第一級の任務として自力更生と、更生なる統一をなすきつていかなければならないと宣言した。

今日の情勢は、われわれの予想した通りに動いた。それは

今、日本の労働者階級・人民は、歴史的転換期を迎え、重大な選択を迫られている。帝国主義の戦争と反動の拳国一致の道か、それとも、これと対決し帝国主義のいっさいの災禍をとり除き、労働者階級の自己解放をめざすプロ独・社会主義革命の道かである。

われわれは、後者の道を当然のこととして歩むし、多くの自覚した労働者の共通の課題として、単一党創建をなすものである。

今回の関西講演集会においてわれわれは、ブンド総括を再度明らかにし、関西の先進的労働者・学生・人民とともに、この事業への力強い前進を共有化するために、全力を傾注するものである。

全関西の先進的労働者・学生・人民の結集を、心からよびかける。



# 吹き荒れる戦争準備・反動攻勢の中 日韓民衆連帯の81年を見すえ

## 12月5日 安保粉碎神奈川集会へ！

### 朝鮮出兵へ突き進む 安保体制の急速な再編

中東を焦点とした米ソ覇権争奪戦の激化と、他方、韓国学生の不屈の決起が伝えられる中で、日帝は急速に安保体制の再編を進めている。

十月二七日、防衛庁参事官岡崎が「朝鮮民主主義人民共和国の軍事力は、日本にとって潜在的脅威である」と、はじめて連日以外の国と対峙する脅威を潜在的脅威として、翌二八日、官房長官宮沢の「共和国の軍事力は日本に影響の可能性がある」とこれを追認した。

また十月二四日には、民社党佐々木が「基盤的防衛力構想に立脚した防衛大綱は、没後威嚇であり見直しが必要」と発言し、十月二七日には第七回防衛トップセミナーにおいて、前陸上幕僚長永野が「国土から遠く離れた海上の遠くで、敵を阻止・撃破する能力、北太平洋の制海のため、とくに宗谷など二海峽封鎖能力をもつべき

### 社共の無力化、民社の敵対うちくたくし闘いを

こうした動きに対し、戦闘的労働者、市民の反撃も強まっている。

十一月七日には、住友重機浦賀工場での海自新鋭護衛艦「はつゆき」二種のミサイルを装備した進水式に対し、住友反合同労委、ヨコスカ市民グループ、相模浦賀監視団が抗議闘争を展開し、また十一月末岡山、来年二月東京で全造船労働者を中心に「造船の兵器生産・軍事化に反対し、権利侵害と闘うシンポジウム」が闘われようとしている。

社共の安保闘争の空洞化と、同盟・民社のあからさまな戦争加担が進行する中で、われわれは、こ



十一月三日金大中氏らへの超スピード控訴棄却決定、そして第三審大法院における極刑確定が予想される現在、十月十七日の「日本帝国主义を追究せよ！」という日本労働者にとって万金の重みをもつ高麗大生宣言にいかに対応すべきかが鋭く問われている。

この数ヶ月職場・地域での署名・ハンスト・集会・デモなど精力的に担ってきた戦闘的労働者の熱気の中で、集会基調が「労働情報」編集人によって提起された。樋口氏は「金大中氏救出、宇佐美暴言弾劾、安保粉碎」という闘いの三つの柱をしっかりと結びつけていかなければならない。宇佐美暴言は日本独占資本の利益の防衛が自ら買収された労働者階級の真の姿を現している。労働者階級の真の姿を現している。労働者階級の真の姿を現している。

## 11.12 首都圏労働者決起集会に四百

十一月十一日、「労働情報」首都圏総局主催による「金大中氏らに自由を、宇佐美同盟会長の暴言を許さず、安保粉碎、首都圏労働者決起集会」が全電通会館ホールに四百名の労働者を結集し開催された。

十一月三日金大中氏らへの超スピード控訴棄却決定、そして第三審大法院における極刑確定が予想される現在、十月十七日の「日本帝国主义を追究せよ！」という日本労働者にとって万金の重みをもつ高麗大生宣言にいかに対応すべきかが鋭く問われている。

この数ヶ月職場・地域での署名・ハンスト・集会・デモなど精力的に担ってきた戦闘的労働者の熱気の中で、集会基調が「労働情報」編集人によって提起された。樋口氏は「金大中氏救出、宇佐美暴言弾劾、安保粉碎」という闘いの三つの柱をしっかりと結びつけていかなければならない。宇佐美暴言は日本独占資本の利益の防衛が自ら買収された労働者階級の真の姿を現している。労働者階級の真の姿を現している。労働者階級の真の姿を現している。

十一月十五日 深夜、金武(キン)町のキャンパ・ハンセン基地内で照明弾投下による実弾演習が行なわれる。

十七日 普天間基地で起きたOJブロンコ機墜落事故にたいする抗議市民大会に二千名が参加。住民地域への飛行訓練を中止せよ。普天間基地を即時撤去せよ。などのスローガンをかけ、集会後は普天間基地大ゲートまでの二キロをデモ行進した。

二日 国際反戦デーは社会党と日共の分裂集会であった。

二日 在沖米海兵隊、奥道一四号越え実弾演習を実施。

二日 米軍演習場での山火事。この日から四日間燃えつづける。

二日 石川高校で、10・21国際反戦デーとは私たちが何のために闘っているかを語り、何かが一貫して住民無視の空港建設に反対し、反対同盟農民の十五年間にわたる闘いの先頭にたちつづけてきた。その生涯は、敵ブルジョア権力の憎悪のまなこであった以上、闘う人民に慕われつづけた闘いの生涯であった。

十一月一日 燃えつづける米軍演習場の消火活動に自衛隊機出動。六日 金武町議会、伊芝イゲイ区から出された「伊芝区の基地撤去要求」を否決。それに対し、伊芝区自治の執行機関である行政委員会が(一)軍用地の契約拒否(二)軍用地主会からの脱会(三)奥道一四号演習場阻止闘争への参加。以上の三点を決定した。

八日 伊芝区の基地被害に関する懇談会では独自に、「一四号越え実弾演習阻止闘争への参加、着弾点への潜入による演習実力阻止、軍用地貸借契約拒否」などが申しあげられ、区民総会の場で住民全体の了解をもとめていくことになった。一方、演習場火災にたいしては、恩納(オンナ)村臨時議会が抗議の決議をあげる。

九日 F15最新戦闘機五機の嘉手納基地への配備が完了する。

※ 演習による山火事の被害は過去に六三年の二一九平方m、七二年の四二八平方mの記録がある。今回は恩納村の山村七二六ヘクタール、立ち木一九六平方mを灰にした。

※ 在沖米海兵隊が利用する戦車橋の建設の進むブーッ岳は、演習被害のたびに降雨時の土砂流出を発生させ、飲料水への影響がはばたいたものになっている。米軍基地の存在は沖繩という島のものを破壊しつつある。

## 大学の研究を国家のために

文相田中

田中大臣は、十四日の文教課題についての講演で産学協同の文部行政推進をふたあげた。いわく「大学の研究をこの際、精鋭をこめて指導し、国家のために動員し、

## 金大中氏ら救出・宇佐美暴言弾劾・安保粉碎を、労働者階級の合言葉に

りて見す、政財界だけでなく、労働者階級にまで及んでいる日韓労働者連帯の闘争を打ち破り日本労働者階級の職権・地域からの政治的決起を創りだしている。これは、いかに闘いを進めようとするか、いかに闘いを進めようとするか、いかに闘いを進めようとするか。

## 十一月九日に一回忌 故戸村一作を偲ぶ会

戸村一作氏は三里塚空港建設闘争決定以前の富里空港建設案当時から一貫して住民無視の空港建設に反対し、反対同盟農民の十五年間にわたる闘いの先頭にたちつづけてきた。その生涯は、敵ブルジョア権力の憎悪のまなこであった以上、闘う人民に慕われつづけた闘いの生涯であった。

## 民衆の生きざま 映画『大石の理』

この時期、アンジェイ・ワイのポーランド映画「大石の理」の日本初公開は、約一月の間、多くの観客を集めて盛況だった。これは、私共満員の岩波ホールに足を踏んで、鳴りもりのいりのこの作品をみることにできた。

また、私にとっては何よりも中心とするポーランド労働者の自主労働組結成の闘いは、十一月に入り労働組結成をめぐる政府の圧力、根拠地農民でありつづけてきた闘いの姿勢と十二・七現地飛行阻止闘争への結集

「防衛三法」(防衛庁設置法、自衛隊法、防衛庁職員給与法の改正案)が、十一月六日の衆議院本会議で自民党、民社党、新自由クラブの賛成で可決された。

しかし、「防衛大綱」(七六)の可決は、中央指揮所の「防衛三法」の可決の特徴は次の二点にある。第一は当初「防衛三法」案で提起していた自衛隊の帝国主義軍隊化への明白な地ならしであること。第二は、民社党が「結党以来」公然とこの賛成へまわったことである。

今回の「三法」の改正案は、(一)自衛隊の定員増加及び子備自衛官の増加、(二)海上自衛隊と潜水艦隊の創設、(三)航空自衛隊に補給本部の新設等である。

確かに当初、中央指揮所の「防衛三法」の可決の特徴は次の二点にある。第一は当初「防衛三法」案で提起していた自衛隊の帝国主義軍隊化への明白な地ならしであること。第二は、民社党が「結党以来」公然とこの賛成へまわったことである。

今回の「三法」の改正案は、(一)自衛隊の定員増加及び子備自衛官の増加、(二)海上自衛隊と潜水艦隊の創設、(三)航空自衛隊に補給本部の新設等である。

## 自衛隊の帝国主義軍隊化への地ならし

「防衛三法」可決を弾劾する 帝国主義尖兵の役割はたす民社党

年々の大幅な見直し、大村防衛長官の発言や防衛予算の別枠計上、そして元防衛大臣の永野、くらす発言によって増やすめられている。

そして何によりも、民社党が「今日の内情勢に対応するた」民社党は「軍需産業の発展」

## 首都圏連立、青行から闘いの提起

特別報告では、日韓民衆連帯首都圏連絡会議の梅林氏から、「青行」のある日韓労働者連帯の芽を、ついでにはならない。職場に更なる討論の渦を、十二月総行動として十二月六日から十三日のキャラン隊による首都圏宣伝活動、十三日清水谷公園での大集会が提起された。

## 民衆の生きざま 映画『大石の理』

この時期、アンジェイ・ワイのポーランド映画「大石の理」の日本初公開は、約一月の間、多くの観客を集めて盛況だった。これは、私共満員の岩波ホールに足を踏んで、鳴りもりのいりのこの作品をみることにできた。

また、私にとっては何よりも中心とするポーランド労働者の自主労働組結成の闘いは、十一月に入り労働組結成をめぐる政府の圧力、根拠地農民でありつづけてきた闘いの姿勢と十二・七現地飛行阻止闘争への結集

# 政治警察の手先＝ラジオ関東を弾劾する

### 緊急声明

## 故小西同志の闘いを防衛し、全戦線から反撃せよ

### 小西同志虐殺弾劾・真相を糾明する会

我々にとってかけがえのない同志であった小西志津子同志が何者かによって殺害されたから、すでに七ヶ月余りになる。この間、神奈川県警捜査本部は幾人かの先進的労働者を容疑者呼ばわりし、数ヶ所への自宅捜査を行い、捜査協力を拒否する労働者に対するいやがらせをくり返してきた。それは、この事件を最大限利用して活動家の身辺調査を行い、先進的労働者の内部に相互不信をもちこまんとする極めて悪質な攻撃である。しかし、こうした攻撃が断固たる反撃を前に効を奏さないと知った県警は、現在「迷宮入り」をほめかして捜査の幕引きをはからんとしている。

### 謀略的なワイドニュース

ラジオ関東は十月三日夜九時の「夜のワイドニュース」において突如としてこの事件を取りあげたのである。それはこの間の捜査本部の反革命的キャンペーンの集大成とも言えるべきものであると同時に、今日捜査本部が意図しているものを代弁するものであった。その内容たるや悪意に満ちた誹謗中傷に終始したものであり、小西同志虐殺を「過激派の内ゲバ」として扱い、捜査本部の「内部犯行」に説き及ぼした上で、「被害者の小西さんの生活実態への疑問」なる許すまじきデマを流したのである。例えば「地方自治体のズサンな職員管理」と称して「小西さんのアパート代等が川崎市市の負担となっていた」「通院時間も勤務時間として認められていた」ことを批難しているのである。だがこのような中傷は事実を知る者にとっては噴飯もののデマではない。

### 労働者がかちとった権利だ

そもそも、小西同志の住んでいたアパートとは川崎市が民間アパートを借り受けて職員寮としていたものであり、その部屋代を川崎市が負担することは何の不思議もないのである。それは川崎市の職員にとって周知のことであり、川崎市の職員厚生施設の不備が批判されこそすれ、小西同志がそのことで批難されるいわれは毛頭ないのである。また自らもせき

### 労働病闘争への露骨な敵対

職業病患者は「三里塚闘争に参加したり、職場の仲間とスキーに行くなどのもつてのほかに、家でおとなしくしている」と言うに等しい暴言であり、職業病闘争を闘う労働者への敵対以外の何ものでもない。これはまさしく、この事件を利用して悪質な公務員労働者攻撃であり、労働病闘争に対する明白な敵対である。

### 相互不信あおる悪質な手口

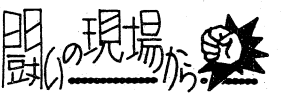
しかも更に許しがたいことには「犯人は数人に絞られた」という捜査本部の受け取りを得た。これはまさに、この事件を利用して悪質な公務員労働者攻撃であり、労働病闘争に対する明白な敵対である。

### レーガンの登場の背景

ロナルド・レーガンが次期米大統領となった。国際情勢の緊迫のなかでタカ派として知られる共和党・レーガンの登場が新たな緊張を生み出すことは必至である。

### ソ米覇権争奪の巻き返しをねらい「強いアメリカ」を宣言

いつでも核ボタンを押す男「レーガン米次期大統領」



### 扶養手当の女性差別撤廃の闘いに注目

「扶養手当の女性差別撤廃」の闘いは、女性差別と居る市当局と差別容認の組合指導部（日共）との全面対決に突入している。この闘いは、昨年末の「女性労働者の決起に端を発している。市当局は、従来「女性に扶養権なし」と女性の扶養申請をにぎりつぶしてきた。彼らは「社会連帯」を名に「扶養権は夫」なる差別運用をもつて、女性差別を拡大助長してきた。女性労働者が申請をせず、「女はダメをくり返し、例外的に認める場合は、夫の収入が四〇万円以下」との差別内規をもち、理由書審査等の差別内規をもち、女性労働者へのいやらせとドウカンをくり返してきたのである。

### 糾明する会への協力を

我々ドス黒い捜査本部の反革命攻撃と断固として闘い抜いてきたのと同様に、これに協力しその代弁者となつたラジオ関東に対しても心底からの怒りをもって弾劾していくことを明らかにする。小西同志虐殺弾劾・真相を糾明する会は、先進的労働者・人民の団結をいっそう固めつつ闘いぬいてきた。そして今や、政治警察との死闘をかけた攻防戦は、わが同盟の全戦線にわたっている。我々はこの攻防戦を総力で闘いぬくとともに、この闘いをも単一争を改良主義的に歪曲し、女性差別に居る当局に対する糾弾闘争を回避したばかりか、決起した女性労働者の封じこめを図つてきた。闘おう。（神奈川県女性労働者

### 政治基盤は超保守主義

超保守主義は、かつてのアメリカの対外的権益・帝国主義的「繁栄の夢」を追求めたものといえる。この様な政治的動向そのものが腐敗の深刻さを物語っているといえ、もつとも危険な傾向をはらんでいるといえる。なぜなら、もはや米帝そのものがかつての「世界に卓越した経済・軍事大国」としての地位を欲しままにすることができなくなっている。第三世界諸国の伸張と民族解放闘争の発展、及び他の西側帝国主義的経済的発展と、そして連立社会帝国主義の世界的支配への侵出という事態の進行から明白である。

### レーガンの登場の背景

ロナルド・レーガンが次期米大統領となった。国際情勢の緊迫のなかでタカ派として知られる共和党・レーガンの登場が新たな緊張を生み出すことは必至である。

### ソ米覇権争奪の巻き返しをねらい「強いアメリカ」を宣言

いつでも核ボタンを押す男「レーガン米次期大統領」

コンテ制への組み入れという数奇な運命をたどった東欧の民衆の精神をとりとえることこそ大切であろう。

今回公開された「大理石の男」は、抗独レジスタンスの悲惨を描いた「地下水道」や「灰とダイヤモンド」に描かれた自由主義派レジスタンス戦士の、ポランド解放時の愛国者であるがため苦悶というような、戦争や生と死とをめぐって照射される人間の生きざまにスポットをあてる激しさとは異なっている。

ポーランドの若い世代 作品の方法は、五〇年代から七〇年代へと至る時代の推移が集積した政治機構の肥大と人間性の喪失という状況の中で、かつての時代を生きぬき、うまれたい民衆像を登場するという手法を用いている。

そこに登場するのは、スターリン時代に労働英雄とされ、そのために謀略と権力機構の中で無惨な死に追いやられる大理石の男（ビルクト）と、映画大学の卒業製作に大理石の男をとりあげ、のちに大理石の男の謎を追いかける女性映画監督（アグニエシカ）というポーランドの若い世代である。

まず私をとらえたのは、アグニエシカの行動力と気迫であるが、彼女の取材する旧世代の人々の一様に口を閉ざそうとする様子と彼女の交際は、時代の変遷、世代間の断層を浮きあがらせて迫ってくる。労働英雄としてレンガ積み作業の実演中のビルクトをやけどさせた犯人にされる相棒のビテックは、今では新興都市の建設要人となっており、ビルクトを見捨てた夫人は酒に身をもち崩した敗残者として登場する。また、かつて大監督として、社会主義リアリズムそのものの労働英雄の記録映画を製作したブルスキ監督も今は過去の人になつていく。

（記録映画の監督はワイダ自身になつており、ならばこの人物はワイダの自己批判の表現か）

やがて、テレビ局のアグニエシカへの不協力の防衛がはじまり、大理石の男の秘密をめぐってスクリーンはサスペンスタッチで進行する。この中で、いまでは美術館の倉庫に埃をかぶっているかつての労働英雄、ビルクトだけが、犯人に仕立てられた相棒をかばって投獄されて以降の不遇の人生に、真実を伝える民衆像として浮かびあがってくる。（主人公ビルクトが七〇年のグダニスクストライキで殺されたことを暗示するシーンにカットされている）そして、映画はアグニエシカがビルクトの息子マテウクをレーニン造船所できがしめて、彼と一緒に映画製作を中止させたテレビ局のりこんでいくところでおわる。

この夏のポーランドは、労働者が知識人、学生をひき寄せる形で反政府運動が高揚し、知識人先行型の東欧の反政府運動の変化を示したが、この作品を通して、挫折の中にのみ身をゆだねていない東欧知識人の典型と、民族と文化を支える労働者の息吹が生きて表裏現れている。ワイダは今月初めの朝日新聞「若い世代」で、

「この夏のポーランドは、労働者が知識人、学生をひき寄せる形で反政府運動が高揚し、知識人先行型の東欧の反政府運動の変化を示したが、この作品を通して、挫折の中にのみ身をゆだねていない東欧知識人の典型と、民族と文化を支える労働者の息吹が生きて表裏現れている。ワイダは今月初めの朝日新聞「若い世代」で、

「この夏のポーランドは、労働者が知識人、学生をひき寄せる形で反政府運動が高揚し、知識人先行型の東欧の反政府運動の変化を示したが、この作品を通して、挫折の中にのみ身をゆだねていない東欧知識人の典型と、民族と文化を支える労働者の息吹が生きて表裏現れている。ワイダは今月初めの朝日新聞「若い世代」で、

### 若い世代

この夏のポーランドは、労働者が知識人、学生をひき寄せる形で反政府運動が高揚し、知識人先行型の東欧の反政府運動の変化を示したが、この作品を通して、挫折の中にのみ身をゆだねていない東欧知識人の典型と、民族と文化を支える労働者の息吹が生きて表裏現れている。ワイダは今月初めの朝日新聞「若い世代」で、

### 「薬」の闘い

「薬」の闘い、それは、健康者としての生活をつづけてきた被害者にとっては本音かいた政府、医療関係者たちの人間性そのものを疑いたくなるような事実にはばらばらとした。なにを信じればよいのでしょうか。もう人を信じるということができなくなりました」という被害者のことばが、つきささるようになっていく。

この映画は、クロロキン網膜症の説明と被害者、医者、製薬会社のプロパーたちを追う場面から構成されている。クロロキンにまつわる資本家・政府・医療関係者たちの犯罪性をバクログロロキン薬害の事実を知らせていくという意味ではよい映画だと思ふ。

への寄稿のなかで、政府と労働者の間の協定が成立する前日の八月二十日にレーニン造船所を訪れ、ストライキ中の労働者と意見交換を行ったことを伝えている。また彼は、労働者の希望によって「鉄の男」と題名の決定した「大理石の男」の続編を、今年中にクランクインすることも明らかにしている。

そこには、自由を獲得するために闘う労働者とともにありつづけるこの知識人の、生きざまにこめた思想を読みとることができよう。

彼の描く「運命の前に生か死か、二者択一を迫られるスケールの大きな人物像（ワイダ）は歴史の表舞台にはつねに登場することのない民衆の姿であり、それゆえに今回の「大理石の男」も、「スターリン時代の検証」とか「組織と個人の問題」とか「組織と個人の問題」という作品のテーマ、イメージを独自化するのではなく、いかにできるならイテンリゲンチヤの問題意識の内面に問題をとどめることのない、力強さを保持しているのである。ワイダの作品の力強いエネルギーは、そのままポーランド民衆のエネルギーであろう。

### 読者の通信

「薬」の闘い、それは、健康者としての生活をつづけてきた被害者にとっては本音かいた政府、医療関係者たちの人間性そのものを疑いたくなるような事実にはばらばらとした。なにを信じればよいのでしょうか。もう人を信じるということができなくなりました」という被害者のことばが、つきささるようになっていく。

この映画は、クロロキン網膜症の説明と被害者、医者、製薬会社のプロパーたちを追う場面から構成されている。クロロキンにまつわる資本家・政府・医療関係者たちの犯罪性をバクログロロキン薬害の事実を知らせていくという意味ではよい映画だと思ふ。



# 共産主義者・戦闘的労働者は 右翼統一に抗し何をなすべきか

## 中央労働組合対策委員会

同盟と総連合、総評の合意の下に統一推進会が発足し、右翼的「労働統一」は今や準備期から更に一步踏み出した。しかも総評内の各単産も民間先行統一に対する「全統統一」の阻止メカニズムもこつこつと降り足並みをそろえて「統一」へのスタートラインについている。そしてまた官公労部門においても、何よりも今年各単産大会が雄弁に物語っているように社共のドロ試合をほらみつづけて「統一」の環境づくりが進められたのである。

それは今日進行する右翼的「労働統一」が決して同盟の攻勢と総評の受け身という構図としてあるのではなく、総評があわよくばそのヘゲモニーを奪取せんとすべく考えていることを示している。このことは一方では今日労働組合の指導権を牛耳る右派幹部と闘い、労働組合を戦闘的に再生させんと日々苦闘している先進的

## 右翼統一との闘争はブルジョア階級独裁打倒をめざす戦いである

我が党はすでに幾度となく、その国主義戦争体制に向けた奉国一致してできるかぎりの機会を捉え「労働統一」なる右翼的再編の階級的、政治的本質を暴露してきた。そして今日ではこの右翼再編を推進する当の本人達によっても、あけすけにその意図するところのものが明らかにされている。

例えば手佐美同盟会長の訪韓報告(同盟新聞)における金大中氏救出運動への暴言や同盟の原案推進のための政策提第第4、数えあげればきりないほどの右翼労働運動の頭目もこの言は、彼らが今日意図する右翼再編が決して個別企業内の労働組合の御用化にとどまるものではなく、ブルジョア的労働者階級の形成をもつてその日帝の政策決定への参画にあることを教えている。

事実、こうした労働組合の右翼再編が党と、すなわち社共公民共闘と密接不可分に結びつき、相互にそれを促進しあっていることを見ても明らかであり、この社共公民共闘が党が社会党の「安保容認」と修正主義の御用学者たる大内力等のかつぎ出しによってこそ可能であったことを見落してはならない。

つまり社共公民共闘連合政権と労働組合運動の右翼再編こそは帝

同盟と総連合、総評の合意の下に統一推進会が発足し、右翼的「労働統一」は今や準備期から更に一步踏み出した。しかも総評内の各単産も民間先行統一に対する「全統統一」の阻止メカニズムもこつこつと降り足並みをそろえて「統一」へのスタートラインについている。そしてまた官公労部門においても、何よりも今年各単産大会が雄弁に物語っているように社共のドロ試合をほらみつづけて「統一」の環境づくりが進められたのである。

それは今日進行する右翼的「労働統一」が決して同盟の攻勢と総評の受け身という構図としてあるのではなく、総評があわよくばそのヘゲモニーを奪取せんとすべく考えていることを示している。このことは一方では今日労働組合の指導権を牛耳る右派幹部と闘い、労働組合を戦闘的に再生させんと日々苦闘している先進的

## 敵の要塞のなかに、 細胞を組織し社共々に代る単一党を

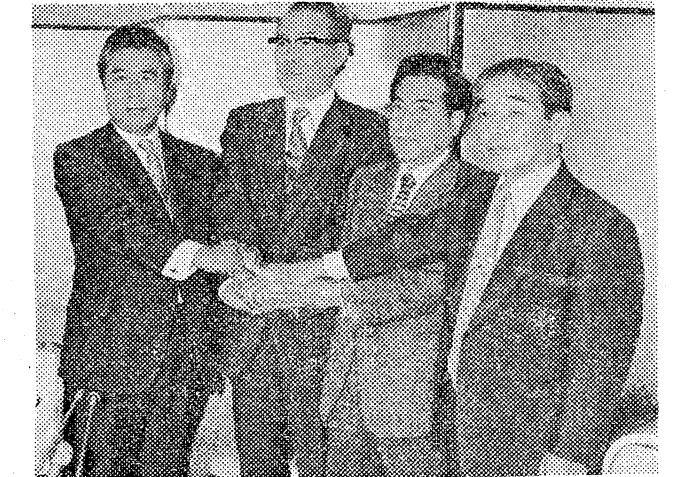
すでに我が党は、党建設の大方を労働者階級の多数の中に確固とした実体的な力と影響力を獲得することに定めてきた。それは何よりも我が党の綱領の核たる労働運動と共産主義の結合の見地から導きだされるものであり、そのこと我が党が工場細胞を基礎とする中央集権型を党の型として定めていくことにも明らかである。

工場細胞とは、今日目的には労働組合運動をその重要な活動舞台の

## 資本・労働貴族の除名、 多数派をめざす我々の道は何か

しかも今日ではこうした労働組合運動を舞台とする大分裂と再編成は不可避に労働組合運動の組織問題をめぐり態度を問わずにはおかない。

それはすでにいくつかの事例がそれを要求している。例えば先の都教組大会における社共分裂がうであり、そこでは統一労働組合と同盟を強行する日共系と退場する社共系との二つの選択肢しか都教組に結集する労働者には提示されなかったのである。またこれほど端的に事態の厳しさを示しているいまでも、自らの拠つて立つべき組合が今日の右翼再編に組み込まれていくことを、たとえそれが「組合民主主義」の手続きにのっと



右翼労働統一につきすむ(左から)同盟、中労連、総評、新産別、の労働貴族達

あつてはならないことは自明であろう。だからここではまず総評労働運動とは何であったのか、そしてまたこの総評労働運動の中でその変革のために闘ってきた戦闘的労働者の闘いとはどのような意義と限界をもつていたのかを明らかにしていかねばならない。

総評発足の経緯についてはひとまず置くとしてここで主要な問題とされねばならないのは春闘型労働運動とすら呼ばれた春闘方式発足以来の二十数年間の運動についてである。一言で言うならばそれは徹底した改良主義であり労働運動を賃金と労働条件をめぐり闘いに限定する組合主義である。こうした労働運動が日本資本主義

の構造的危機の中では改良の果実をすらすら引き出すことができなくなり、あまつさえ一挙的反動の強化と戦争準備を前にしてそれと闘い抜けるはずがないのである。だから、この間の右翼的「労働統一」とはこうした日本資本主義の相対的安定期に咲き誇った改良主義労働運動の破産とその延命策であり必然ですらあると一言で過言ではないのだ。

## 戦闘的組合主義 からの脱却へ

このことは従来、こうした総評労働運動の中で左翼反対派として闘ってきた左派の先進的労働者にとつてもその活動の転換を要求されたものであるとしてもそれに従わねばならないのか。そのことによつて左派の活動が封じ込められていくともある。

更にはまた、今日支部、分会として活動する労働組合が労働市場の中で公然と戦闘的労働組合運動を推進している部分や上部単産の右派幹部もこの決定に唯々諸々と従つていくとするならば、培か

もつて右翼再編に反対することでは、最後にこうした戦闘的労働組合運動の独自の組織的結束をめざす闘いが果さねばならない課題について提起しておきたい。それは、今日、右翼再編のなかで排除、切り捨てられる戦闘的労働組合や争議団を防御することであり、またより攻撃的には四五百万労働者階級の三分二を占める未組織労働者の組織化の結集とすることである。

そしてまた社共のドロ試合にふり回されることなく、社共政治に代わる独自の政治的表現の場を創出していくこともなければならぬ。

すでに全国各地に散在する戦闘的労働者の闘いは、こうしたことの主体的条件をすでに充分に作りあげている。こうした方向に今大胆に踏み出すことこそ現在の右派の攻勢、左派の守勢をくつがえす道である。

全国の闘う労働者諸君、前半において明らかにした正しい政治路線を要し前進しよう。

## 改良主義の物質 的基盤の危機

しかも今日そのための条件は我々をして増々有利な方向に成熟しつつある。すなわち誰の目にも明らかかな右転換をうけた社会党と、あいま変わらず議院内のおしゃべりにうつつをぬかし「経済民主主義」なる資本主義の「民主的改良」による労働者階級にふりかかるとして、労働者階級にふりかかるとして闘いぬくのか否かの分水嶺である。

だから我が党は今何よりも緊切に問われているのが、こうした社共々に代わる前衛党の建設であり一人でも多くの先進的労働者がこの事業に参加されんことを呼びかけ見えないウソをふりまいて見

## 戦闘的組合の全国的結集と「中・下層」に依拠した階級的労働運動の道

しかも、今日一方ではこうした戦闘的労働組合の独自結集「第三勢力」結集の方向に対してそれを社共傘下の圧倒的多数の労働者大衆への働きかけを放棄するものであるとか、「総評の防衛」総評の階級的強化をスローガンとして右翼再編と闘うべきだとする見解がある。

だが、こうした見解は右派の政治力学関係から見た戦術スローガンとしては一定程度有効かも知れないが、主体的組織建設の方針を欠いたそれは右派に対する積極的対抗軸軸たりえないことは明白である。

すでに知られているように、総評内においても社共共闘派による左派結集の動きが活発になつてきている。こうした動きはこの間の急激な右転換への反作用として当然

の積極性をここに動員していくことである。

それは、個別の対資本との日常戦を基盤としつつも決してそれにとどまることではない。そうした闘いの最も先鋭な表現としてある争議団の闘いも、それが既存の労働指導部から切り捨てられ、権力の直接的弾圧にさらされることによつて強えられる困難さが逆に労働者階級を鍛え上げる絶好の鍛練場へと転化していることは疑いない事実であるが、こうした争議団においても先の政治路線に結びつかないかぎり敵の包圍と分断をはねかえし労働者階級の広範な決起の中核部隊となることはできないのである。

## 主体的条件のもと と多様な工作

しかもこのことは、けつして遠い将来の課題ではない。すでに労働組合の中では左派の活動家に対しては一つ一つの「踏み絵」が用意されており、これを拒否する活動家は容赦のない排除が進行している。金本山や千葉労働者がそうであり、近くは全電通福島の被処分者による電通労働組の結成である。

それらの闘いの具体的経過を見れば明らかのように、そこでは反動的な労働組合の統制と処分の方針をおおつた多数派をめざすべしという説教が、いかに説得力を欠いたものであるかは明白である。(もとよりそれは反動的組合のなかで、共産主義者が非公然に活動することを否定するものではないが)。

## 敵の要塞を 困せよ

もつて右翼再編に反対することでは、最後にこうした戦闘的労働組合運動の独自の組織的結束をめざす闘いが果さねばならない課題について提起しておきたい。それは、今日、右翼再編のなかで排除、切り捨てられる戦闘的労働組合や争議団を防御することであり、またより攻撃的には四五百万労働者階級の三分二を占める未組織労働者の組織化の結集とすることである。

そしてまた社共のドロ試合にふり回されることなく、社共政治に代わる独自の政治的表現の場を創出していくこともなければならぬ。

すでに全国各地に散在する戦闘的労働者の闘いは、こうしたことの主体的条件をすでに充分に作りあげている。こうした方向に今大胆に踏み出すことこそ現在の右派の攻勢、左派の守勢をくつがえす道である。

全国の闘う労働者諸君、前半において明らかにした正しい政治路線を要し前進しよう。

# 米日韓軍事一体化と共に 強まる 韓国植民地支配の実態

### 全斗煥・維新残党勢力が軍事クーデターと血の虐殺行爲による朝鮮人民の民主化強圧を謀る

と第五共和制の発足を宣言し、軍事独裁の恒久化をはかるとして、他の再教育運動とともに、「送りこまれた」韓国の支配者である金大中氏ら民主化運動指導者への死に、十一月段階には報道・新聞関係各社の二公社への統廃合へとつながる。

田村夫ら有名な韓国ロビイストの訪韓と、あからさまな全斗煥体制支援の発言とともに、最近では十一月十四日に、NHKが「全斗煥韓国大統領領事館インタビュー」放送し、全体制賛美の宣伝をやりやうとすることが分かった。

「毎日新聞」と語っている。

そして、十一月五日には日韓経済委員会（日高輝代表・国際電信電話会長）を開き、新たに「日韓交流促進委員会」と「日韓経済協力長期構想研究委員会」を設置することを決定した。この委員会設置は、今回の六大商社の訪韓とも、次の二点の特徴をもっている。

この放送は意図的に全斗煥の「金大中は有罪」「金大中氏の救命運動を止めているのは韓民族や朝鮮連系の者たち」という発言をながし、わが国の金大中氏ら政治犯救出運動抑圧、在日朝鮮人・韓国入りの差別強圧をおこなったことと、こうして日本はプジョア国家の権力の動きとともに、活発化して

### 独占的利潤確保のため 必死になる六大商社

わが国の支配階級は、こうした「政の安定」として歓迎しはじめた。全斗煥独裁政治の進展を「韓国内」岸信介、金丸信、春日一幸、福

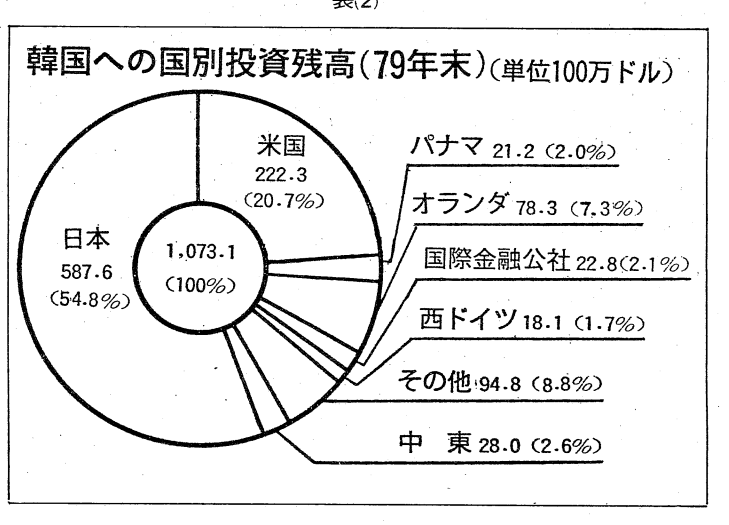
きているのが財界・独占資本の動きである。

七月の政府ミッション（使者）として、日商岩井・福田はじめ大型輸入契約団が訪韓し、総額十二億五千万ドルの輸入を決定した。今回十一月十九日から訪韓する大型経済ミッションは、日韓経済委員会を率い、大韓商社社長以下によって構成されている。（表1）

商社名	韓国企業名	従業員数
伊藤忠商事	維ニッパ、山和、善韓、兼松江商	788124、485171、243259、400671
丸紅	維ニッパ、山和、善韓、兼松江商	788124、485171、243259、400671
日商岩井	Hotel Shilla、斗東大、三井物産	1000164、363500、138900
三菱商事	斗東大、三井物産	363500、138900
三井物産	斗東大、三井物産	363500、138900
トーマン	Seohan、住友商事	8087360、285600
住友商事	Seohan、住友商事	8087360、285600

### 日米帝の新たな テコ入れの特徴

その第一は、現在の韓国経済の疲へいへのテコ入れとともに、韓国の統制経済体制への企業再編による独占的利潤の調整と確保である。最近の韓国経済動向によると全斗煥は「朴体制」下の「現代グループ」や「大宇グループ」から、「三星財閥」にテコ入れし、企業再



この放送は意図的に全斗煥の「金大中は有罪」「金大中氏の救命運動を止めているのは韓民族や朝鮮連系の者たち」という発言をながし、わが国の金大中氏ら政治犯救出運動抑圧、在日朝鮮人・韓国入りの差別強圧をおこなったことと、こうして日本はプジョア国家の権力の動きとともに、活発化して

## 戦時 労働線

### 九月三〇日 昨年九月自動車労働者長途路が提唱した「統一労働者同盟」構想を受け、「統一労働者同盟」の下準備として同盟と総評の「民間先行統一」の妥協が成立し、民間主要六車産による「労働戦線統一推進会」が発足した。七三年、労働統一推進母体であった「統一連絡会議」(二十一年産会議)が空中分解して以来七年ぶりの具体的協議の場の発足であり、労働の右翼的統一の本格的胎動である。「推進会」の構成は、鉄鋼労働連中村・全日通(中川、以上総評)・ゼンセン同盟(宇佐美、電力労働)である。 連二橋本(以上同盟)、電機労働連(山、中労連)、自動車労働連(塩路、勢ぞろい)といったこの労働者たち、日々「今度失敗したら労働統一は永遠に成功しない」とその決意を強調している。全日通をのぞき、他は署名高き「政策推進労働者同盟」に加盟している車産である。 十月二日 統一労働者同盟(流集会)において代表委員引問(運輸一般委員長)は、先の「統一推進会」発足に反発し、七月総評大会での「統一労働者同盟」を認めていない」といって発言を拒否し、七月七日 政策推進労働者同盟 ひるがえし、「統一労働者同盟」が二百二十万人の勢力をもつたこと自信をもち、分派分裂活動など言われてはならない。今後は新しいナショナル・センターを作る考えはない、などと言われている」と発言、この発言は、陰然と日帝独占資本に忠告したにもかかわらず、労働者階級から仲間はずれにされている日共の危機感と居直りを吐露している。また統一労働者同盟「八二春闘」の提言では、「軍事費を削り、福祉予算増大の大運動を」と呼びかけ、強迫労働者大衆の反合・大中賃上げ・生活防衛の闘いを予算組みかえの議会改良主義の沼地へと一層ひきこむようである。 十月三日 全通七回中央

### 植民地支配破棄こそ 日本労働者の任務

しかし、韓国の民主的労働者、学生、知識人の批判に批判するようになり、こうした米帝の「軍事援助」や、日帝の「投資」「輸入」が一時の景気回復を生んだとはいえ、結局は植民地経済の拡大再生産であり、日本の独占資本が自らから「資本投下」のもとで「生産」したものを「第三国」へ輸出し、その利益を得るという経済構造はなんらから変わらざるを得ない。この構造が、韓国経済の自立化ではなく、植民地経済の拡大再生産を促進し、労働運動の産業報国会化を促し、労働運動の人民を分断し、ともに共同の敵に対する闘いに立ちあがらぬよう、「国益防衛」を旗印として、労働者全体としての拡大に努力することを明らかにした。

## 国内評論

### 国会で「健康保険改正案」が可決された

自民党政府が、政府管理健康保険財政のためになおしを口実とする、あからさまな強奪攻撃の一つである。通称「国民健康」と呼ばれてきたこの制度は、労働者人民とくに大企業等社会保険に加わっていない小企業下の労働者や農民、漁業従事者、及び小商店主従事者を対象としたものである。

今回の「改正案」の骨子は、保険料の上限を現行八％から九・一％に引き上げる。健保加入者本人の負担を初診時現行六百円を八百円に、入院時一日二百円を五百円に引き上げる。医療費の三割を自己負担している加入者家族の入院の場合は一割に下げるといっている。これによって、政府は八百億円の給付増を招く半面、加入者の自己負担増で年間百億円の増収とともに九・一％への引きあげで年間約三千億円の増収になるといわれている。

これは実質の増税であり、普通でも生活が苦しい労働者人民にとつておちおち病気ができなくなっていく事態を示している。社会労働委員会が審議をみれば、自民党は改悪案を強硬に押し通した。すなわち政府判断がそのままに値上げをすることに同意したのである。当初、社会労働委員会がこの点を問題としていた。今回の改悪案もこの改悪案を繰り返している。

労働者階級は、この改悪案を強く批判している。労働者階級は、この改悪案を強く批判している。労働者階級は、この改悪案を強く批判している。

## 健保・労災保険法の改悪

安心して働けず、おちおち病気ができず そして増税—どうなる労働者の生活

た労働者への犠牲の転化を強いたにもかかわらず、以上の大改悪がなされた場合、生活困難に及ばず、労災闘争等損害賠償を起した場合は、政府の保険給付を判決以前の労働者の既支給分限度内で行なうという。それ以上は行なわないというものである。

こうした場合、民事損害賠償のうち逸失利益分が被災した労働者の生活に支障をきたす。これに対し、企業側は労災闘争が生産体制の強化の支障になるという危機感を感じており、この庄殺を計ることを意図してきている。たんに労災闘争の抑圧を計るのではなく、労災闘争の抑圧を計ることを意図してきている。

「改悪案」(七月三十一日)のなかに「労基法における災害補償の規定の削除と、使用者の民事責任を免除すること」と提案している。これもこの改悪案の本質は明白である。

労災保険法の根本的改悪のみならず、労働基準法そのものさえ、経営者側の有利になるように仕組んでいくことをねらったものである。こうして、不況にもくみこまれる労働者の強迫と弱体化を計る。この改悪案は、労働者の権利を奪うだけでなく、労働者の生活を脅かしている。

この改悪案の主張が、「二重取り」というデマゴギーを骨子としていることは、単に労災問題にかぎらない。公害、薬害、医療被害者等全体に及ぶことは必ずである。資本主義の発展、資本家の利益欲求は、労働者の生活を脅かす。労働者階級の闘争が、労働者の生活を脅かす。労働者階級の闘争が、労働者の生活を脅かす。

### 労基法の骨抜きをねらう改悪案

更に、この健保改悪とともに再上程された労災保険法の改悪案は、今年二月の国会で労働者人民の強い抵抗に廃案になったとはいえ、今回再び「労災保険と生活補償」(民事損害賠償)の「二重取り」という企業側のデマゴギーを受けて、改悪が強化されんとしている。

この改悪案の最大の特徴は労働者階級の権利を削ぎ、労災被害者の賠償を減らすことにある。その第一は、受給者が保

また、この健保改悪とともに再上程された労災保険法の改悪案は、今年二月の国会で労働者人民の強い抵抗に廃案になったとはいえ、今回再び「労災保険と生活補償」(民事損害賠償)の「二重取り」という企業側のデマゴギーを受けて、改悪が強化されんとしている。

この改悪案の最大の特徴は労働者階級の権利を削ぎ、労災被害者の賠償を減らすことにある。その第一は、受給者が保

シリーズ 80年代の安保 は、都合により今回は休載します。



# 単一のマルクス・レーニン主義党創建のための論戦

14

## 戦旗・共産同が「人民史観」に

### こめた第二次ブンド克服の限界性 (下)

戦旗・共産同は、「安保」日韓体制打倒、「朝鮮侵略反革命を蜂起・内戦へ転化せよ」というスローガンが集約して示すように反戦闘争の戦闘化を主張している。彼らの「血債の思想」「人民思想」「革命思想」最近の「武徳の思想」これらは、結局の所、反戦闘争を徹底して闘うという以上何物でもない。しかし、これは、民主主義の政治闘争であり、社会主義革命の要求、即ち、資本の没収・生産手段の共有化・黄金奴隷制の廃止のスローガンの実現を目指す政治闘争ではない。

戦旗・共産同は反戦闘争を革命の闘争と見、民主主義で暴力革命・プロレタリア階級独裁を実現しようというのである。日帝打倒・プロ独・社会主義革命

や「佐藤自民党帝国主義政府打倒」(六九年四・二八闘争)のような政策阻止・政府打倒の民主主義の政治闘争の戦闘化軍事的展開でプロ独・社会主義革命の政治闘争を展望して来たのである。その実践結果は、七〇年安保大会戦における党的敗北であった。我々は、第二次ブンドを総括し、同じ誤りをくり返してはならない。

資本主義の黄金奴隷制の維持から切り離し、民主主義の否定に切りこめることになっている。

ここからは、プロレタリア階級独裁を民主主義の要求の組織化を通じて実現するというところから、資本主義の黄金奴隷制の維持から切り離し、民主主義の否定に切りこめることになっている。

## プロレタリア階級独裁の一知半解と急進民主主義政治

では何故に戦旗・共産同は、社会主義革命の要求を組織しないのか、あるいはいえないのか。理由は大きく二つある。

一つは、カウッキは、帝国主義とは資本主義が独占階級に到達するに必ず経る段階であることを見逃し、それを一種の政策と見做し、帝国主義の政策と独占の土台とは何ら関係のないものと主張した。これに対してレーニン「帝国主義を簡潔に規定すれば独占資本主義」とあるとの観点からカウッキを批判し、「問題の核心は、カウッキが帝国主義の政策をその経済から切り離すところにある」と指摘した。戦旗・共産同は、資本の没収・生産手段の社会化という社会主義革命の要求を掲げないことから、実際にはカウッキと同様に「帝国主義の政策をその経済から切り離して」している。

戦旗・共産同は、ブンド九回大会の「世界一プロ独樹立」論や「12・18ブンドの「世界一プロ独」統一共和制論」の一筆的「単純世界同時革命」(「過渡期世界の革命」)を排し、「一國におけるプロレタリア階級独裁を樹立を承認している。これは、未だブンド系の少なからぬ部分が「プロレタリア階級独裁・社会主義革命を綱領問題の核心に据えきれずにいることを考慮し、一定評価しえる。」

その上で戦旗・共産同は、日米安保体制を次の様に規定している。「われわれはこれまで、日米安保であるとかNATOなどの帝国主義の反革命軍事同盟を言い、共同反革命を宣伝・煽動してきた。こ

## 日米安保体制—国家権力に対する日和見主義の見地

これは、帝国主義が共同して国際階級闘争を押し込めようとしている現実、第三世界の解放闘争と労働者国家に対抗していることを説明する概念としては正しい。

つまり、現代過渡期世界において日本が帝国主義として生存しつづけるためには、「第三世界の解放闘争と労働者国家に対抗して外交政策において米帝に補充され依存せざるを得ない」というのである。日米安保体制を日帝の外交政策として

現在の「日本のプロレタリア階級と労働者階級」は、プロレタリア階級と労働者階級を擁護・抑圧するため、社会主義革命への反革命のため、また

とすることに、アジアの植民地支配と民族解放闘争、社会主義国および連社会主義国への番犬、突撃隊としての「(綱領草案)

こうしたことの集中的表現が日米安保体制である。つまり、現在の日本の国家権力は、プロレタリア階級が掌握するブルジョア階級独裁である。しかしこれは米帝国主義に補充され、依存し、また一定支配され従属している。(「同」)のである。

日本革命の性質は米帝追放を含む社会主義革命である。ところが戦旗・共産同は米帝追放の任務をみていない。なぜなら、日米安保体制を権力問題としてとらえていないからである。

戦旗・共産同は、工場細胞建設を「内容的にも実面的にも政治闘争を闘う内実を損なわせる」実現される闘いにおいて決して民間労働運動を越えることができず、帝国主義労働運動のうちかつことができない」という。

そして、「問われているのは、既成の労働運動の中にどのような「理論」「意味付与」を持ちこむのかではない。既成の運動ではなく、党の下に独自に組織された闘い——「党としての闘い」をいかにつくり出すのか、この闘いにかに労働者の解放闘争と労働者国家に対抗

## 日・米両帝国主義の側からする安保体制の利害は何か

戦旗・共産同は、治外法権・占領の部分的継続である在日米軍とその基地の存在を直視すべきである。何故に、戦旗・共産同は、日米安保体制を権力問題としてとらえないのか。

根拠の第一は、ブンドの革命の性格に対する経済決定論の無批判である。

第一次ブンドは、当時の日帝「自立・従属論」に影響される中で、党中央は「日本経済はアメリカに従属している。日本は従属国だ。民族の危機が深まっている」といっているが、これは誤りである。戦後日本経済はアメリカの従属下にはありません。しかし、以後、日本の資本家は再び地位を回復させ、徐々に一本立ちするようになっていくと思えます。(「われらの対立」)「私達は、日本に即していうならば、日本資本主義の力量回復と国際競争への突入こそ指し示さなければならない」とのべるところから直接、日本の国家権力は資本家階級の統一の支配という規定を導き出した。第二ブンドはこれを継承した上で、日米「侵略反革命同盟」論を提起したのである。

つまり、ブンドは日帝打倒—社会主義革命路線を日共の民族民主革命に反対して提起しつづも、権力問題において経済主義・日和見主義であった。その結果、米帝の日本に対する一定の支配を握ることができなかつたのである。戦旗・共産同は、このことに関して

## 第二次ブンドの党建建設観を受けつぐ戦旗の限界と誤り

戦旗・共産同の見地には、大きく二つの問題がある。一つは、労働者の多数の組織化の放棄である。ブンド六回大会での都道府県支部の設置の提起に引き続いて、ブンド七回大会は、地区委員会の建設を提起した。われわれの全国中央集権党の組織上の環が中央諸機関の以上の諸点とともに地区党建設の常任配置の完了にあることは明白である。「地区党の典型はすでにいくつか生み出されている。その発展方向と任務は次の通りである。①細胞建設、細胞活動の最前線である。②地区における党独自活動(細胞建設・細胞指導・「戦旗」組織化、配布、街頭宣伝)③政治活動(反戦闘争)④組合活動(産別、個別)の三者構成を常任配置としてなす得よう計画する。」

つまり、第二次ブンドは、地区委員会を通じて、経済闘争・民主主義闘争、特に反戦闘争の戦闘化に、スト権集会・デモ、特に反戦青年会の行動に動員することによって労働者階級を組織し、その中から工場細胞の建設をめざしたのである。

結論からいえば誤りである。レーニンは「帝国主義論」の中で「帝国主義にとって特徴的なものは、まさに農業地域だけでなく、もともとの工業的な地域をも併合しようとするのである。」「という。戦旗・共産同は、帝国主義の、即ちこの場合、米帝の日本

という「もともとの工業的な地域」に対して部分的にせよ支配しつづけるようとする志向を否定している。その結果、米帝を美化しているの否定である。

戦旗・共産同は、工場細胞—組合フラクと見ているのではない。日共・革マル—解放放がそうだから、革命の旗もそうに違いないと思ひこみ決めつけている。

戦旗・共産同は、工場細胞—組合フラクと見ているのではない。日共・革マル—解放放がそうだから、革命の旗もそうに違いないと思ひこみ決めつけている。

下、地域共闘(労働者を組織し「党が自らの戦略的総路線を体現すべく決起すること」(理戦13号)を通じてのみ、改良主義労働運動—帝国主義労働運動に「うち克つこと」ができるのだという。つまり、戦旗・共産同が独自に設定する課題(「反戦闘争」と集会・デモにヘルメットの党派部隊として登場することが重要だということである。これは、模原の「階級の労働運動論」やその延長線上の「4・28闘争と階級の労働運動論」論文の見地と基本的にはなんらかわる所がない。

として労働者階級を支配している現状を見よする時、強調して良いことである。ところが戦旗・共産同は、経済闘争を改良闘争であるからといって否定することで、かかる支配を事実上承認し、そこでこの闘争を回避しているのである。

社共政治—議会主義に対する左翼反対派を克服しよう

第三は、改良主義労働運動や帝国主義労働運動を根本的に批判しえないという点である。

社会党や日共や民社党、総評、同盟・JOCの改良主義労働運動や帝国主義労働運動は、根本的には資本と癒着し、ブルジョア国家権力と癒着し、ブルジョア国家権力の打倒と資本家階級の没収を回避し、労働者階級の反抗をおしよとせ、労働者階級を黄金奴隷制とブルジョア階級独裁のブルジョア国家の鎖に縛りつけるのである。だから、プロレタリア階級独裁・社会主義革命の宣伝・煽動を意味に放棄し、反戦闘争の戦闘化にとどまる限りでは、改良主義労働運動—帝国主義労働運動を根本的に批判できないのである。

こうした三点の問題を指摘した上で、我々は戦旗・共産同が、最後のまともなとしたい。

## 急進民主主義者の工場細胞建設の否定とその根拠

戦旗・共産同は、工場細胞建設を「内容的にも実面的にも政治闘争を闘う内実を損なわせる」実現される闘いにおいて決して民間労働運動を越えることができず、帝国主義労働運動のうちかつことができない」という。

そして、「問われているのは、既成の労働運動の中にどのような「理論」「意味付与」を持ちこむのかではない。既成の運動ではなく、党の下に独自に組織された闘い——「党としての闘い」をいかにつくり出すのか、この闘いにかに労働者の解放闘争と労働者国家に対抗

## 経済闘争に対する誤った態度を克服する必要がある

第二は、日米韓安保体制粉砕・日韓連帯という反戦闘争—民主主義闘争を、「戦略的総路線を体現」する闘い、即ち革命的政治闘争と見、経済闘争を改良闘争であるからと誤って見、きり捨てていることである。反戦闘争も経済闘争と同じ改良闘争である。このことを忘れてはならない。

経済闘争は、改良闘争であるが、黄金奴隷制の資本主義に根拠を有し、その結果に対する闘争である。従って、資本主義の黄金奴隷制の根源である資本家階級による生産手段の独占とそこから労働者階級のいずれもが、社会主義革命の宣